

刊夕日九月十



定価 三錢
電話 八三〇
印刷所 常警日新聞社

或る日の會話 (三)

眞繼 雲山

十界互具

凡夫 六道能化を仰せありしは如何なる意味で御座いますか。

佛様 能化といふのは能く他を教化開導する資格ある者のことで、その教化を受ける機類——つまり衆生を所化といふ。

所化とは教化せらるゝ所といふ心ぢや。地藏も觀音も六道を教化する役廻りぢや。

凡 六道と申しますと！
佛 前にも話した通り下から數へて地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上。……この六界を六道とも言ふんぢや。

凡 人間は兎に角として、天人ともなれば、既に教師たる資格がありさうに思はれますが、何故それが教化を受けねばならぬのですか。

佛 天人の壽命は五百歳、長いやうでも結局、死なねばならん、生死あるは未だ迷ひの分際で、悟境を距ること遠いから、悟つた者の教化を受けねばならぬ仕組ぢや。天人以下は皆んな生死を繰り返す、それ故この六つの

階級を六趣とも六凡とも名づける、要するに凡夫ぢやからのう。

佛 その教師の役目を四聖といふ、下から數へて聲聞、緣覺、菩薩、佛ぢや

この四段の聖者は死ぬるといふことが無い。悟つてをるから安樂の境涯ぢや。

凡 さう致しますと、手前は、どちらの階級でせうか、六凡か但しは四シヨウ？

佛 ふうう。大ぶん貧乏づらをしてをるが、打ち見たところ先づ人間の格

初九先生慰問句集 (二)

在滿洲第二師團軍醫部長
龜井盛隆閣下慰問句集

水にとぶ舟のかげりや灯取虫
名札讀む門灯暗し灯取虫
灯取虫に灯をとられしが涼しけれ
火蛾落ちて樂譜の上を羽ばたける
山遠き闇を飛び寄る灯取虫
灯取虫團扇を擡げ動き居り
灯虫掃くや昨夜のまゝなる何やかや
灯のほのぼをこがす大蛾かな
火取虫くるくるまひて灯に落ちし
火取虫の灯の影落す疊かな

抄 醉茶
不忘
同人
童夢
茶花
同園
同綾

で、聖なる心に生くるものあらば、それは聖者と云ふ妨げん。心に上下があるだけで肉身は心の容器に外ならん。大臣も乞食も肉体には無いからのう。

記していへば、苦惱のみに生くるが地獄道、欲求そのものに生くるが餓鬼、本能そのものに生くるが畜生、闘争そのまゝに生くるが修羅、歡樂そのまゝに生くるが天人ぢや。

かまぼこの

御用は藤寅へ

儀式用折詰仕出し

御惣菜用

吉原揚

迅速 藤寅

平町一丁目
電話一四一番

正確な時計

お客様本位の……

好適の眼鏡

平一常盤屋時計店

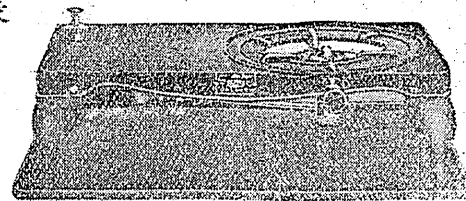
瓦斯や電熱より經濟で便利な變性アルコールを燃料とする尖端的の特許
自家瓦斯發生器生る

本器の使命

國家的燃料の革命

家庭經濟の合理化

特價金八圓五拾錢



(しな差大と油石段値ルーコルア)

本器の特長

- 一、便利重寶 一ガス、電氣のやうに管やコードを要せず、土器鐵器の様に重からず、石油厨爐の様に容積大ならず、持運び自由で體裁良し
 - 二、經濟的 一「アルコール」を一日「ガス」化して燃える爲め燃焼物の容積を膨大し火力熱量は類なく強大でありますから燃料が少料で安價に煮炊き出來ます時間は瓦斯より早い。
- ◎飯一升五合炊くに要する各種燃料比較實驗表
(昭和六年四月釜屋商店調)

四季の平均 アルミニウム製並二升釜使用
米一升五合に對する水の分量一升六合

用途 一一般家庭臺所向は勿論左記に利用下されば最も便利と思ひます。旅館、料理業、うどんそば屋、問借別荘、病院、船舶(海上生活者)野

今回御便宜の爲にねん料アルコールのハカリ賣を初めました
精々御利用を願ひます

釜屋商店
平町五丁目 電話九番九九番

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町 (電話二七〇番)

大和田醫院

信用組合の加入者激増

業績は著るしく進展

最近平庶民金庫の状況

各数字總て倍加

信用組合平庶民金庫は二丁目百七銀行跡に移轉し本據を構へてからは一層業務進展の觀あり現に一月から九月迄の新出資數の如きも

從來の

組合員にして増資した口數二百卅五口、此人員八十三名、新加入は口數七百十四口、此人員百五十九名に達し合計九百四十九口の大激増を來すに至り平町に於ける金融の中心機關として眞に其の機能を發揮するに至つたが其の業績を昨年九月と本年九月の

出資金	昨年	一、三、四〇〇圓	本年	二、六、八〇〇圓
貯金額	昨年	一、〇、〇〇〇圓	本年	二、〇、〇〇〇圓
貸付金	昨年	一、〇、〇〇〇圓	本年	二、〇、〇〇〇圓
同利子	昨年	一、〇、〇〇〇圓	本年	二、〇、〇〇〇圓

自給肥料の生産

獎勵効を奏す

農産物價の慘落に郡農會で更に馬力

各現在を比較すると左記の如く總べてに於いて倍加せる有望な傾向を示し

現在農産物生産費の大部分は肥料であつて一ヶ年の農家収入中この方面へ費消される額は莫大に上るが殊に

昨今の如く農産物價の慘落しつゝある場合は農家經濟に困窮を來さしめつゝあるに鑑

松茸のグロぶり

野天に展げゆく

近代味覺の王者

すべてサイレンの交錯と金鑼製の騒音——それは街の一日の上に縦横に疾驅する文明の黒線である、我々の眞白い感情の一日に憂鬱な音波の網狀が描かれる、網の目の下に我々は遙かなる心の自然が小さな蠢動を

つゞけてゐるのを知る さて、秋十月の街衢へ氣高い芳香を強く放散して、秋のナイトのごとく登場する松茸、我々は八百屋の店頭からひんとする香りに「土」を感ぜざるを得ない

松茸は白岩あたりが有名で街の人々も澤山行くらしい、山の上で枯松葉を焚きながら焙つてソースで食べる松茸の味覺は、聞いたくけでもそよ風に咽喉が鳴るくらい、野天に展げる近代食卓に我々はかぎりなき憧れを抱く

地表に、よきと出てゐる恰好は廓大すればグロの骨頂だらう、笠の開きかけたのが一番いい香りと味を持つてゐるがまだ開かないのは柔らかなで開き過ぎてはもう駄目である

日曜日、街の人々は相携へて、いま眞盛りの茸狩へそして夜の食卓には山から採つてきた松茸が茶碗蒸となつてのせられる——見のがせない秋の景物である

み石城郡農會では政府の方針により之が對策として可及的自給肥料を獎勵し金肥購入を節約せしめてゐたが九月末日現在夏作用堆肥の生産状態を調査すれば郡内において生産見積額は一〇六〇二、三一一貫匁に達し昨年比一、六九六、三七〇貫匁の増加を示してゐるので更に大馬力をかけ肥料の配給改善に努めることになつたが金肥代用としては神谷農事試験場等で研究し來つた紫雲英、間作大豆、ザートウイッケン等の栽培を助長せしむる計劃である

土地拂下げ金

回収難

平稅務署

手をやく

平稅務署では昭和二年石城郡三坂澤渡組合村松崎保房外數名に拂下げた同村内の

△十月十二日 湯本、入山
△十三日 平窪村、鹿島村
△十四日 小田炭坑、高久村、内郷白水、澤渡村
△十五日 三坂村、赤井村
△十六日 飯野村
△十七日 好間村、永戸村
△十八日 磐城炭礦、小名濱町、上下小川村、平町
△十九日 箕輪村
△廿二日 豊間
△廿五日 福島炭礦、好間炭礦

清潔日決定

平は十八日

既報平署では昨日午後一時より管内各町村衛生主任を召集衛生主任會議を行つたが當日協議の結果管内町村の秋期衛生日割は左の如く決定された

磐中講堂にて開かれ左記廿七名の生徒が夫々雄辯を振つたが最後に「滿蒙の近況に就て」と題し川崎本社長の講演があつた

輝滅び行く亞細亞に一縷の光を求めて(三郷會) 松本桂 英語支那とは何ぞ(五年)遠藤親夫 流れ出づる前に(五年)岡田健治 朗らかに生きんが爲に(平商)高野巖 劍に聴く(五年)石倉道朗

長橋青年登山 平町 長橋町青年團主催で明日十日赤井嶽登山をなすが同町内希望者は會費七十錢で参加自由である

石城瀨引引狀況 △四倉瀨市場(八日) (白蘭)七九三貫(最高)三圓十七錢(最低)二圓八十錢(馴)三圓

平町人事 出 生 △五丁目一五 吉田豊民長女美智子 △古銀治町三八 野田藤氏二男行雄 △古銀治町九一 小野虎三郎氏三男 好 死 亡 △田町五四 島田勝氏 長女トシ子 (二)

堀坂地内の

追はぎ捕はる

余罪嚴重取調中

昨八日午後十時半頃内郷村綴字堀坂煮豆行商人太田照吉(三)が同地内を通行中一名の怪漢が飛出し金を貸せと脅迫した擧句更に山林内に連れ込み同人の衣服を脱かんとしたので照吉は夢中になつて逃げのびたが急報に接し平署では犯人嚴探中の處今日午前八時頃同山林地内を徘徊の男を取押へた處同人は埼玉縣北足立郡青木村生所不定沖田松雄(五)と云へ前記の犯行を自白したが余罪あるらしく目下取調中

熱辯を振ふ

辯論大會

磐城中華學校辯論部各郷友會及平商業學校辯論部聯合雄辯大會今日午後一時

道路に柵を廻し

断然通せんぼ

交通妨害の告訴騒ぎ

チトヤ、こしい話

石城郡小川村大字上小川字横川前井戸川初義方では自宅から往來へ出るためには同家から敷町

離れた 國井熊雄方所有地を通らねばならぬので大正九年頃から井戸川は國井と相談した結果自費で縣道迄の道路を作る代償として同道路を兩名方で自由に通行する契約を取替し今日迄経過したが最近國井は此契約を破り道路の真中に柵を廻して交通を邪魔するの

で井戸川方で再三交渉を重ねたが取拂はぬため本日平署に交通妨害の告訴を提出して来た

妻の家出

内郷方面に居る模様

神経衰弱で

茨城縣多賀郡助川町西町の大内民治の妻タカ(三)は最近神経衰弱の爲時折り家を飛出すので監視中五日午後八時頃家人の留守中に家出した同人の妹が石城郡勿來町字大倉の大日本炭礦に勤める酒井某の處へ行つたらしく勿來町に家人が行つた處酒井夫妻は最近内郷の磐城炭礦に移つた爲探し求めるタカも居はしないかと平署へ本日搜索方を願出た

尋ねる亭主は

裁判劇の役者

石城地方を巡廻中

早く歸つて頂戴ね

東白川郡棚倉町廿八坂田ミネ(三)の夫義雄が田舎廻りの活動辯士となり家を留守にして居るが最近近は音信すらなく生活費も送金せぬのでミネは病氣となつても醫藥を買う事が出来ず近所の人の情で其日(一)を送つて居たが最近夫は新派俳優木村秀郎一行の裁判劇に加は

精勤章付與

郡出身者名

歩兵第二十九聯隊に於て最

近精勤章を付與された石城郡出身者左記の如くである

- 赤井村林時次郎 小野益次郎 植田町猪狩誠二 鈴木一美 川前村根本倉太 夏井村鈴木春雄 渡邊村鈴木吉雄 平町深谷四三郎 内郷村鈴木正吾 市川正義 勿來町佐々木幸市 錦村金成戸右衛門 玉川村山野邊清

磐中健兒

發火演習

四倉平町中心

来る廿三日

縣立磐城中學校では来る廿三日から四倉及平町を中心として發火演習を行ふ由であるが廿三日には四五年生五百名参加し翌日は全校千

主人の留守宅にて

暴れ放題の泥酔漢

金を貸せと上り込み

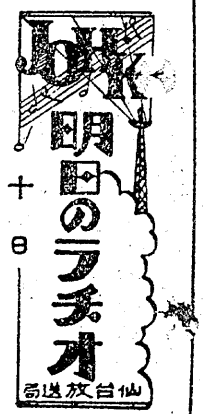
茨城縣東茨城郡磯濱町神町生れ目下平町新町五二中沼二郎(三)は八日正午頃村木町木炭商齋藤周造方へ泥酔の舉句上り込み主人が留守なので周造妻ハルに金を貸して呉れと頼んだが断はられるや突然火鉢の灰かきを以てハルを横たした上家財道具を手當り次第投付けて破す物音に近所の者が集つた處を平署員に取押された

二百の健兒が秋霧れの郊外に砲火を交へつゝ戦線を展開するものであると

煙突ルンペン

旅費の願出

本日午前十一時頃平署の人事相談所へ職人風の若者が來り旅費の借與を願出たが同人は静岡縣引佐郡三日町上尾生れ小野豊(七)で數年前より郷里を飛出し東京にて煙突掃除を働いて居たが最近では同業者が多くなつて無資本の彼は昨年中から田舎廻りと落ち各地を流浪して居るうち病毒に冒されたらしいが同人は病毒でないとして數日前郡山から平へ來る途中川前附近で毒草から腫れたと申立て、居た



明日のラジオ 十 仙台放送局

- 今晩の部
 - 後六、〇〇(子供の時間)
 - 「伊達政宗公」中西利徳
 - 後六、三〇 英語講座「初等科」(一)岡倉由三郎
 - 後七、三五 副業講座「農村副業の實際に就て」二笹岡高幸
 - 後八、〇〇 俚諺「もんき 胸鳴唄」其他 佐藤久右衛門 其他
- 明日の部
 - 後九、一〇 料理献立「ス タフド、トマト、マヨネーズソース」
 - 前一〇、三〇 家庭講座「衣服調整及整理に就て」
- 好問農會座談會
 - 石城郡好問村農會では十二日午後一時から役場會議室に於いて各役員を招集産米改良の座談會を行ふが尙當日は十二月初旬石城販賣利用組合の農産倉庫に開催される俵米品評會の出品法に就いて打合を行ひ席上木名瀬穀物検査支所長、橋本郡農技手の講話がある筈
- 學生列車の延長方陳情
 - 午後三時二十分列車は木戸驛終着のため同驛以北の學生には極めて不便なのでこの程双葉郡富岡町長早川清久氏等は仙臺鐵道局を訪れ同學生列車を富岡驛まで延長運轉方を陳情した
- 平映畫界
 - 平館：九日より結城一郎及川道子「眞實の愛」高尾光子「純情」高田浩吉、浦波須磨子「街の勇士」来る十五日よりは上山草人の「愛よ人類と共にあれ」
- 狂女頑張る
 - 平町紺屋町清水屋の女中から一躍街頭へ踊り出た荒井マツ(三)さん、あられもない風態で町中を歩いてゐるが一度留置された處はやつぱり覚えてゐるとみえてきのふけふはいつのまにか平署の玄関番の形で嚴めしいお役所の入り口に頑張つてゐる、うつかり入つてゆかうものなら「おい、おまへさんは何だい」「ヘエッ……」それと氣づいて「ヘエ……用があるんで」「どうかい、私にお辭儀をしてお通り！」とやられて平署へ出入りする連中タチ

今晩も明日も北よりの風晴一時曇りの見込

- (三) 庄司洗豊
 - 後〇、〇五 新日本音楽
 - 後二、二〇 運動競技「野球リーグ戦」
 - 後六、〇〇(子供の時間) 童話「犬の行方」櫻葉勇
 - 後六、三〇 英語講座「中等科」(第二講の六)「Tライエル」
 - 後七、三〇 講演「日蓮經人の宗教」酒井日慎
 - 後八、〇〇 長唄「七面天女」杵原たね 其他
 - 後八、三〇 俚諺「身延音頭」其他
 - 後九、〇〇 ラヂオドラマ「法難の一節」汐見洋他
- 有聲座：椿三四郎鈴木京子主演「戀を知る頃」尾上菊太郎小坂照子主演「喧嘩商賣」市川玉太郎鈴木澄大熱演「權八伊達姿」十日より

平署官内の

人事周旋狀況

皆年期奉公

平警察署官内人事周旋業者の去月中に於ける職業紹介の状況を聞くに求人数は男十三名、女八名合計廿一名にて求職者は男十名、女五名合計十五名あり紹介の結果就職したるものは男九名女三名、合計十二名で是等の多くは男女何れも年期奉行である

平愛婦役員會

平町愛國婦人會では来る十二日午後一時から同第二小學校にて役員會を開く

町長再考慮

十八日は動力休

安息日がフイになる
平町の秋季清潔法は来る十八日と決定したが同日は第三日曜に當り動力休みにて

平愛婦役員會

平町愛國婦人會では来る十二日午後一時から同第二小學校にて役員會を開く

町長再考慮

十八日は動力休

平映畫界

平館：九日より結城一郎及川道子「眞實の愛」高尾光子「純情」高田浩吉、浦波須磨子「街の勇士」来る十五日よりは上山草人の「愛よ人類と共にあれ」

狂女頑張る

平町紺屋町清水屋の女中から一躍街頭へ踊り出た荒井マツ(三)さん、あられもない風態で町中を歩いてゐるが一度留置された處はやつぱり覚えてゐるとみえてきのふけふはいつのまにか平署の玄関番の形で嚴めしいお役所の入り口に頑張つてゐる、うつかり入つてゆかうものなら「おい、おまへさんは何だい」「ヘエッ……」それと氣づいて「ヘエ……用があるんで」「どうかい、私にお辭儀をしてお通り！」とやられて平署へ出入りする連中タチ

小説 七五三

(五十六)

渡邊 默禪 作
布施平八郎 畫

【載轉禁】

影法師 (5)
『いえ些とも分らないの
でございませよ』

『貴君さまから先程そんな
お話がございましたから、
私もよく氣をつけて様子
を見ましたがどなたも居ら
しやらないやうでねえ。私
にはちつとも合点がゆきま
せんよ。』

『そんな筈がないよ。確か
に俺が見届けたんだが、婆
さんうまいことを言ふぢや
ないか、知つて居るんだら
う。お前が知らんと言ふ筈
がないよ。』

『いや、旦那全く知りませ
んよ。私も夫れはちとをか
しいと思ひましたによつて
よく／＼氣をつけて中へ這
入りましたがどうも外には
お人などはお居ではござい
ませんで、ちやんと奥様お
一人切りで居らつしやいま
したよ。』

『變だなア。』
『へえ、俺も變だと思ひま
すが如何かなされましたか
ら。』

『イヤ、俺は確かに男の影
法師があゝの窓に映つたのを
先刻見たのだがア……』
『いやそれは何か旦那の思
ひがなにか。』

『お茶酒が二本に水菓子が
一井、それから珈琲が二ツ
でございませよ。』
『ウム、然うか。よし／＼』

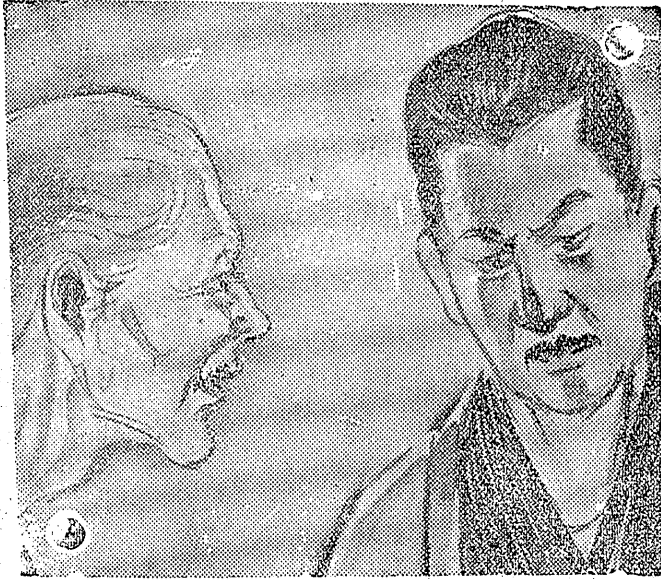
高野は手帳を出してそれ
を書入れながら。
『そうすりや、矢張り二人
前ぢやないか。』

『是は今夜厄介になつたお
禮だ、取つといてくれ。』
『あら、およしなさればよ
いにお氣の毒さまですこ
と。』

『お頼みして置くがね。今
夜のお客はどんな男だか。
どういふことをするか、い
つ歸つて行くか、その風體
や人相、時間などのことを
よく氣を付けて見てゐて呉
れないか、濟まないが一つ
これだけは是非お前達に頼
んで置きたいのだ。俺は別
に奥さんを監督するの何ん
のといふ意味ぢやないが、
只少く俺に考へがあるのだ
から……併し奥さ
んにそんなことをちつとで
も悟られたら大變だよ。い
ゝか、遠廻しに様子を見る
んだ。いゝかね。しつかり
やつて呉れよ。』

『さうか。』
高野は紙入れから五圓紙幣
を出して封筒に入れ、それ
を二人の前に投げて

『お茶酒が二本に水菓子が
一井、それから珈琲が二ツ
でございませよ。』
『ウム、然うか。よし／＼』



『お茶酒が二本に水菓子が
一井、それから珈琲が二ツ
でございませよ。』
『ウム、然うか。よし／＼』

『さうか。』
高野は紙入れから五圓紙幣
を出して封筒に入れ、それ
を二人の前に投げて

御用命は印刷物の
常磐毎日印刷株式會社
電話三六〇番

藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

専門 内科一般
宅診 内科は何でも診療致します
往診 呼吸器病ばかりではありません
平町南町六五
川井内科診療所
醫學士 川井重之
女醫 川井安子

井 三
の 商品切手
番 八四 三二 八
平三電
木村外科醫院
平町五丁目橋際
電話三〇九

子宮病血の道の方は左記の良薬をお用
えになればラクに自宅で退治出来ます
BISHINGAN
子宮美神丸
座宮子
平町古鍛冶町
一手 阿康藥舖
特約店
電話四四番

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
電六三〇番
(申込次第規則書進呈)

産名城磐
魚問屋
最優最大日本生命平代理店
志賀盛榮
平四丁目 電二二三番
配達敏速

債公。債為。替金融
多田井質店
平町大町
電話一九五番

上田外科醫院
平町南町
電話二一九番